

私の履歴書

釜本 邦茂

②⑧

引退後に始めたサッカーチームになると立ち上げたクラブは2009年11月16日に千回を数えた。それからも年に40回ほど開いてきたから今は1200回を超えたと思う。シンガポールやタイのバンコク、マレーシアのクアラ Lumpur、中国の上海や香港にも足を運ぶ。そういう活動ができるのはロ

落下地点に苦もなく入れるのは運動神経が発達する時期にフライを追いかけたことと関係があると思っている。一つの競技に絞るのが今は少し早過ぎるかもしれない。クラマーさんがしてくれたように子供にはボールを止めて蹴る基本技術と判断力の大切さを説いている。以前、中村俊輔（横浜M）に「ヘディ

サッカーと共に生きる

支えてくれる妻に感謝

「釜本」として
ッテやスリーポンド、シンエネコーポレーションなど支援してくれた企業のおかげだ。07年から新潟市のグランセナ・フットボールクラブのサッカー教室でスクールマスターも務めている。同市に本社を置くトップカルチャーの清水秀雄社長が大のサッカーファンで日本一のアマチュアチ

昨年末の全日本少年サッカーには新潟代表としてグランセナの小学生チームが出場するまでになった。幼稚園児から大人までサッカーを楽しむクラブの風景を見ると地方にもスポーツ文化が着実に根を張っていると実感する。

もっとも、自分の子供の頃にも良かったことはある。野球とサッカーの両方を楽しんだことだ。私がヘディングの

の他愛のない会話。そして梓と望、二人の孫の成長だ。体の方はヘディングのしづきか、眼球をつる筋肉が弱っている以外は特に問題はな



妻、そして2人の孫と

と「若いですね」「見えませんね」と返されるだけ。口にした数字に自分が規定され、自分を老け込ませるような気がしてしまう。今でもシュートを打てば子供を驚かすくらいのことではある。が、足腰がよたよたの釜本もどうかと思う。サッカー教室の仕事がいつまでできるのか。「釜本」という名前を残しながら現場をやっている人を探すか。あれこれ思案することもある。

14年の叙勲で旭日中綬章をいただき、サッカーに大半をささげた人生が報われた思いがした。同時に自分を支えてくれたすべての人に感謝の念がこみあげた。この先の人生もスポーツとサッカーへの恩返しを念頭に精いっぱい生き抜きたいと思っている。

（日本サッカー協会顧問）
あすからアイリスオーヤマ社長 大山健太郎氏